

40

70回写ノア遺信 No.1

日本で開拓団主導の農耕の確立は、二つあるものである。一つは、大正時代に露呈されるに至った、昭和初期に於けるアメリカ通商政策をもとにした不況の影響による、一方深刻化し、農明化する農業地帯としている。完全な天葉港は五、六万を突破し更に特徴と取引的天葉の形で、恐慌の衝撃により、ヘーブロレタリアーの上に加熱されてくる。田舎者本邦農業者に没落した不況の初回・レコ全島主導古事記の中には、さきづか・そらの日暮の、田村町郷親に於ける田舎主導と、吉野市母屋町のための西口主導が並立をしてへねだして居る。島本主導の死の苦悶の中で、それをヘーブロレタリアーが農業に發揮してくるべきであるにシタリヤードの事中止にある。

の利害關係に發展するであろう事に対する明瞭なとつづいた、
實感の切迫に打って、日本は「資本とその行為者たる所長最大
の當初への打撃を最大の足力かりとしつゝ、そののり切りと策し、
さうして安定した長財政の確立によつて、ソルジニア法戒体制の全
的解體、資本化とめらしき、彼つゝ口そのため、何をかし与効
能の分裂と法戒化をほかり、効力者階級に対する集中攻撃を一矢
化してしる。全教義の中さしつとも果敢な斗闘と展開でしる教
會勞働者、勤許者等に対する集中攻撃は、當時の法軍の勝利と
してすすめられてしる。このよつて時向に來ける効力者階級の一歩
の筋屈きと僵硬、それにつづく百歩の後退を意味する、反亂の共
会の到達して治道をつづけるなら、敵當初の必死の攻撃によつて
屢々的打撃をうつむかねたため、もちろん被占資本のあらざりな
だいひ死の攻撃の姿勢と、その攻撃の本領を高め評議する、この是
きわめて危機である。しかしそのことはつて効力者階級の手で
と斗闘を絶えずおこせる事を合理化し、全教義が反亂を先駆に組
成する必要を否認する事に断つて好い。日本の財力高額な、指導部
の筋屈で終止符をつり、敵の攻撃を防ぐとして西郷的活力能動を示さず
こと、單に思想的導得の範囲を語るなどよつてぐるく、興

日本は日本の貿易は日本の階級斗争をかたてない規模で全目的に展開する。經濟のよつ争辯でひろがつた労働者、農民の斗争は、日本はレーニアートのカリナリイ革命的工スルヤー区はつきりと証明した。政府警察の執拗な追及と鎮圧の下で、革効運動の醜態と全く同じ日本資本家は、解放された失業主邑者を中心に角組結され、新しい力でその醜態を全国に拡大し、しかし32年テー一セはソレに反対する闘争の立場に依拠して、いた日本資本家は、日本階級斗争を徹底的にすこすこめ、日本のスルジョアシカの国家と争はいとり、資本主義をうちたあすことと目標とするのでなく、日本の斗争を改良主義的な要求にすりかえ、斗争をあやまつた方向へ行つたのである。

天皇制はその力を失い、銀行、重商産業のさしあげによつて倒産し、ヨアシーナ・重工业打倒をうけていた一九四五五年暮には、政治情勢が一時的に左傾的な國家保護資本の下に發展し、カロレタリアートは青年的優勢に直面していった。がくかな政治的自由を獲得した労働者農民の熱狂は急速にはじまつくりた時に、大アルシヨアジーはもつやうにオーネーションとヤミ、インフレに沿路を見せしれは至急的危機を一層深化させるとともに、國家構成とくに超大型資源構造に空白状態をもたらしていった。情勢はアロレタリヤートこそが国家至高統治構造を如何的に占めし、それと次々に広く不平等のとして行くことによつて、經濟、重工業と國家統制を掌握することを必要としていたし、可能もしくていたのである。すでに日本労働者の尖鋭的部力は、多くの部分的要求のみをうず、生産管理の斗争を開いていた。「も何うか、日本共産党は毎年テレビにしながつも、いいんとして、主目標を絶対上位の天皇制に固定することにこつて、労働者の革命的斗争の真干ど一二産業者は生産を止めながいための手段だ」という改良主義的要求にさき下げてしまつたのである。

日本労働者階級はどうぞ、「百方の機械」を意味すると大期待されど歓迎の声では、しかしながらかつての政治方針を基本的に改良主義と民族主義の階級に固定するとの決定的な裏手をもつたのであつた。

11ではなく、野坂は、自己次大戦をめぐる反ファシズム戦線を活性化することによつて、アロレタリア独裁の必然性と否認し、革命主導的方針を無条件に一般化する改良主義と、国际的左翼の名のもとに、日本労働者階級の間に小生のものである革命の平和的達成という、野坂のマルクス・レーニン主義の「化」こそは、かつてオランダの前派をもつた。31一ターナショナルの崩壊をもつて、民族主義の反映と追隨には乍ら手がたのである。実法制度における共産史の敗北と、吉田内閣の成立、に資本政勢が開始された。彼らは改良主義的社會民主主義の有的支えに頼つて、岸の存在勢で展開されていふに労働者の斗争を辞することを諦してしまつた。これに対して日本の労働階級は自力でこの攻撃を退け、全官公ニカの労働者を中心にはとんと労働者を小さく凶斗争を展開して、アロレタリア独裁に重大な打撃であるが革新的情勢に近い高揚をつくりだした。だが己一九三〇年止と、全体の運動の進行は、日本共産黨の指導部が、眞に階級立場をうらだじえず、断固たる階級斗争をうる政治部隊として自己批判を明りかにし、革命の根本的仕合を正さねばならぬから、暴觸したのである。共産党はたゞちにその政治的方針を科学的に面的に説話することによつて、日本の全労働者階級の前にはつまじと自己批判を明りかにし、革命の根本的仕合を正さねばならぬから、た。だがこの時、日本共产党の官僚主義的指導部は、労働者斗争に対する右翼的批判と助けて、一方ではオホカの改良主義と、大方では極左セクト主義の泥沼に一矢の柏原をかけたのである。勿はきわめて高度に弁証法的手段つまりの自己批判によつて、己一九三〇年に結論された労働者の斗争を清算主義的に解消し、地域、民族斗争と階級闘争へと分離せしることによつて、數件の上場と仕上げた。日本共産黨がハゼんとして天皇制官僚と政黨の目標として、資本主義の牙城に迫つてしむいかずり、政治斗争は反政府的に局限され、戦略的には右翼的統一戦線戦術と結びついたセツ

その二十余年の歴史を振りて日本支配階級はかくも非難され
たが、ついでまたの日本本邦国民党であつた。十四革命が終り、あ
こに日本的行商初歩事の高揚を裏面として、日本に奉げられた
革新的努力として、世界で最も注目される所の中でも、帝日半的戰
略に対して、中國とつづけたものでは日本本邦革命の立場で而さ
れかたはどうべき革新的な勢いの由來とする様に思つてゐる。そして、
今日見る日本共产党は、日本アーリータンマートの頭もすぐれた革
命的部隊となるべく、最も尖鋭的な頭脳に裏面をもつてゐる点が半ば日本
一だ。今日本共产党のうちにつける統合的状況は、日本は階級斗争
における革命的意義をもつてゐる。階級的斗争内斗争を日本は必ずし
も階級斗争のアーリータンマートとして利用して、戦闘日本化の
本邦共产党の立場で、日本の階級斗争を日本の階級斗争の立場でみ
ることの意味だと理解するが、現実にはいかがわしくして説明に困らざつたが、
「階級斗争の階級の斗争」の立場でいなければ、何を何が大問題で、日本共产党
が決して日本共产党の革命的階級斗争をかかし、革命的理論は日本共产党
おらず、日本アーリータンマートの革命的力量を發揮おこして階級斗争をか
算すれば、其の出来の現実的立場がをもたらさざる事を自己からして、
くるのである。だが、直ちにその階級的大戦を前にした、せむら村は日本共产党
の立場で、党内外斗争の歴史をみ、回想大戦の教訓今、ハリ、
日本革命的行商主義者の組織的結果と断言したる階級斗争の展開を
ふれて、この立場で、うなづかう。東洋にある民族、かつては種族として、

ト主導にめちびいた。すなはちこれは極左的左翼主義を敗北的政治主干にあがけ、勝利者の斗争五一戻成的平敗北にめちびくものに、他ならぬかつたのである。

帝國主義的占領者の、直接間接の援助のめまうす、改良王主者の直
接の力持のもとづき、日本帝国アルシャアジーは勿市看階級の高揚の
一派を絶滅させることによつて力肉保に一定の内衡を作りだしてい
る。だがこの面にも、片山内閣が租占資本の悪化とアロンタリアート
斗争の抗争の準備をあしめていた丁度その時に、日本共産党の
二回大會は公然と、労力内閣による权力侵奪の戦闘を退けたので
ある。在り乍り、と異色高い野坂の報告はいづ、「もし社会主義革
命党とどもならば、結局、敵は列連的勢力と、租占資本はかりで
く、あつゆる種族の資本主義的勢力を一つに團結するため、敵
として身をもつとまでしまつ。」トやれやれが社会主義革命の歴史を
叫ばれわれの陣営は力張り、弱く守り、反対に敵の陣営を盡大
きな結果になる」と。階級斗争の戦のようを展開の中で不正統た
る土毛革命に対する日本共産党的信しきれ存し程のこの忠誠と戻ご
とく、また大皇帝を打倒し、次にアレシャアジーとアフリカ政力かとい
ハ王士を絶対化した、32年テーゼへの国际奴隸主キニナフエ王スル
の如きである。そしてアロレタリアーの強君こそ、あつゆる民主
主義をも含む生人氏の問題に対する眞の解答であるといふ。10月革命
の教訓の物語は、同時にロシヤ・オルシニエーリキによつて斗ひた
て、它的内斗争の伝統を放棄させた。階級斗争の一時的大衛の上に立
て、六回大會は、党の實際主キのキンを固め、ついにひいては、
日本女共産の日好貞主キを固定化し、遂に、10年の解説にみちじいた
四、野球文化の成立を凡て可及のである。

次に、既次世界大戰におけるソタエトの勝利は基本的には日本の計画を各
に競つてゐるが、それは世界の階級的力關係とアルシャアジーに決定
的に不利に変化せられた。東洋へのアロレタリアー體裁の拡大は、又ソ
連内部に蘇聯主キの成長を可能ならしめ、ソリド國際的孤立を打破つて
ユーロビン中日に於ける軍事の勝利は、コミニンテルンを破滅にみちじ
いた、新たに日初見主ギ、スマーリニズムを一月居化して来た皇帝の

敗北の長い道程に終止符を打つに。植民地語日本における、相次ぐ帝
軍的斗争は、世界帝国主義と一層強め、社會主義化す革命的革
命運動の再生に力を与えた。ソ連内部には、計画主義にすつてモ
だうされた生産手段極大的あらうべき比率は社会關係において不
断の成長をとげて、ヨーロッパ・ソビエトに有利に転化した。ソ連内
部における計画主義の成功と、國際的不規模における革命の前進は
、ソ連社会の内部矛盾を尖鋭化させ、国际的運動の中からオリンピ
ック的な革命的精祿を絶殺し、ソヨレタソバーと混迷し敗北に
みちびりて未だスターリニズムの萌生する地盤を開拓せしむる方向に
作用したのである。40年のトルーマン・ドクトリンによつてはじ
まつたアメリカ帝主ギの公然たる攻撃とヨロジイの新らしい勢波の
中で、オーストリア大戦争ノイ・ターナンショナルの崩壊をみちびいた
と同じよう、オーストリア大戦に手つてコミニンテルンが自らの破滅とお
即した後の混乱と空白の時代にあってソ連共产党平運動は、「ミニン
アオルムの筋成」によって、新しい方向をはじめてうちだせた。され
ば本質において世界人民の新たな存する革新的高揚と階級的決戦を抑
止しての、労働者國家における官僚体制の瓦解成を意味するヒのであ
り、その政治路線は右翼的日本民主ギの「新ラシ」の形態を意味するモ
のにはかならなかつた。だが日本共产党の徳田・賀倉久派は、この
時、アメリカ帝主ギの意図を正確に把握できず、もしろ曰く反
的運動を支配してリテ民族主義に鼓舞されて、「占領下の平和革命
」と云つてマルクス主義の日本化してしまつてゐたのである。
国际情勢の有利な展開の中で、日本の労働者階級は再度の敗北と
失望して、その中にひそちにカリ切れて革命的エヌレギーを示し
て立ち上つた。この時、日本共产党の左翼セクト主義の赤色労働組
合セギの組織指導こそが斗争組織の分裂をみちびいたのである。片
山内閣の別窓で社会に伊藤律が指導した日共合同は、完全に無原則
的左翼的統一戦線の思想だと同時に、社会黨の解体をめざす左翼セ
クト主義的な指揮を意味するものであつた。

革命がナツとコロとして日本プロレタリアートへの挑戦を蘇舊した。だが、それは舊古資本そのものの矛盾を尖鋭化させ、恐ろしく尖鋭化して、日本の労働者階級は、二、一ストライキによってつてついに左派行規模の斗争に立ち上ろうとしたのである。強力な斗争によつて独立資本の攻撃を粉碎し得るならば、此の革命的情勢をもつくり出す可能性をもつていて、こうして決定的時期に日本共産党中央は労働者の元老の李帝斗室と、おもむく地盤の貿易労働斗争に、しかも反政府斗争にそらく、革命的エネルギーで舊古資本主導の支配を決定的にやるべく向に向づけられたのである。そのかわりにそれは共産党に集結した革命的労働者を思想的に武装解除し、匪軍事のように地盤的暴力斗争をなり立て、大艦からひきほりし、馬鹿の条件の下でレーベンの被占領の後醍醐の前に革命的エネルギーをひきこじめ、勢力を弱められた共産党は、大失墜の中に至る。政黨主義と斗争はよくて、改良主義の勢勢下に大衆の最高意識をつきつけ、武装などつて斗争と呼び抜けたのである。

日本共産党のこの二つの反革命的犯罪行為に対する抗議は、決然たる政治的攻撃と十七中季と之を、眞に階級的革命的情勢の範囲で對する完全な抑圧によって保護されたのである。四九五九日、中央委員会には提出された中田の意見書に対する、李帝斗室の没理論的攻撃と十七中季と之を、反対者の無視、非難というかくべき官僚主義的不認否に、日本共産党の階級の方向を決定下げるものであつた。だからこそ日本共産党が眞に革命的反対勢力の集束を欠き、強力をもって斗争をつけて勝利さし得なかつたといつて事実な、日本の階級斗争の前途を阻止したところと云々、とりわけ今日、われわれは、つまづくと算出してあ

二
50年問題の教訓

元すること、が真に、ホリシゾー、オウジ、でござるであらうか。日本共産黨の革命的統一のために立ち上ることを否定することができる。ところが、党代表者によつて、おかれたオセ回観大会でさえも、これまで開きることはつづいておなかつた。八月から九月にかけて、全国統一委員会（野田派）、團結派（中西派）、統一協干会（福本派）などの分派組織が誕生した。ことに全国統一委員会は、徳田派から排除された中央委員長より、関西、中国の地方委員会を含めた運動的な党内外派として結成され、九・三社説による統一の失敗後も東京の統一委員会を中心にして五十一年十月、二〇中委の孚はによる解散に至るまで、一年余り、公然たる党内外派として活動を續けた。このような日本共産黨史上画期的な党内外派にもかかわらず、党が眞に革命的に再生しえなかつたのは何故か？われわれは今日、當時の国际派諸分派のもつていた欠陥と失敗の教訓を正しく学ばねばならぬ。

第一に、国际派諸分派が下部党員も含めて、国际的权威主義においてござつていしたことである。徳田分派らの改良主義を生み出し、それと反対していたのは、他ならぬコミニスト派を中心とする国际的な運動を支配していた日和景王が、あつたといふことを曰めさせ、眞に生き残す立場からの革命的運動の推進がなされたためには、やつたのである。九・三社説が既中の下への國結をよびかけ、コミニスト派が四全協を承認したという事実は、決して偶然ではなかつたし、又早に日本共産黨の党内情勢にうとり同志たちの情勢評価のちやまりに帰せらるるべきものでも決してない、それが基本的な差異において徳田分派のあやまりが国际共産主義運動を支配しており、党を眞に革命的な党に再建するためには、国际的運動に対する無条件の权威主義を断手うち破らねばならぬことをはっきり示してい

一九四九年に古界資本主義とおどった、や三次大戦後の初の危機、資本主義諸国との労働者の争争と植民地諸國人民の解放戦に大きな展開力を与え、中団と東欧における革命の勝利とみちびいた。斗争の前進の中で、西欧資本主義諸国における敗北の苦い経験の中から、社会民主主義に対する決定的批判を伴わない右翼的一戦線戦術に対する労働者の疑惑と批判がひろがりはじめた。被占領本拠地の攻撃に対する防衛戦の中で、プロレタリアートが毀滅的な打撃を蒙り、プロレタリアートの斗争の中で、改革王ギーが完全な指導権を確立したのになつて、いせんとして旧の敗北的路線に固執して、いた共産党的指導部に対する下部大家らの批判がようやくひろがりはじめたときになつて、官僚主義指導部は、自らの無能力を隠蔽し、大衆的支持を回復するため左翼へのトニンボ返りを演出せねばならなかつた。五〇年に行なれたコミニフォルム機関紙無署名論文における野坂批判も、翌年プロレタリアートの斗争の中で、すでにいくたびか、その破産を証明してきた日和見主義の基本的立場に立ちながら、極端な左への転換によつて、五一、五二年のグロテスクな冒險主義を説くするものに他ならなかつたのである。官僚主義的強圧的存続によって日本共産黨の民族主干的指導者の威信を傷つけたそれを判の方法は、コミニフォルムが持つ、労働者国家の官僚体制を持強化という本質的性格を証明するものであつたじ、国际共連運動の指導部が、真にボリシェヴィキ的守備術をもたらす、の旗主キと改良主義に対するきびしい批判を含むものであつたが、にハザードは激しい党内斗争と討論を通じて、党を真に階級的前線部隊として再生するための村委会とせねばならなかつた。だが、

十月には「一党的統一促進のため」にわれわれはに進んで原宿に近るレコード店を壊して、自らの組織を解体した。とくに志賀義雄は九・三の反対派中央委員の共同行動から解散して、彼自身に既中への復帰をするかはうとしたのである。中西の意見書に對して、その「どうくべき官僚主導を証明した志賀のいう「ロレタリア國際主義」とは國際追隨主義以外のなにものでもなかつた。

第二に、国际派諸分派は革命的な黨内斗争の意圖について正しく理解を欠き、ついに黨の統一と党的團結というボリシェヴィキ黨の神話を粉碎することができず、徹底的な黨内斗争の展開をあげられただることである。「党的分裂は人として人民から孤立させて、何よりも革命運動と党的發展に決定的に損傷を与えた。」しかし、事態に際しても、黨の統一と團結を守ることこそ一義的党運営の仕務である。これこそ五〇年の黨の不幸が分裂から愈れわれが黨はなければならぬなり第一の教訓である」と、野坂参三はのべた。しかし「私は分派と一緒にの關係を絶ち、今派根絶のために斗争する」と橋田が自己批判、「輪中の「恩讐の道」をえらんだとき、それは黨の革命化のために極めてもたらしたものであらうが、「党的分裂」という空氣的現象そのものが、わが日本の革命運動に決定的損害を与えたしのでは決してない」とさきに黨を分裂に等しい日本革命運動を破滅させた徳田分派との争いを述べられてゐる。徳田は「党的統一はありえなかつたのである。黨の分裂の過

、五〇年九月から指揮候郎によつて提出された武装斗争の新方針、コニンガム領によつて押しつけられた軍事的暴力の実行、軍の上に立った、地域的奴隸半農の方式に強圧的な野坂批判の社會主義によって必然化されたのである。国际派諸分派がコニンガム方式に対する眞目的奴隸王ど、黨の統一といつて黨内斗争を諱め、當時国际の五〇年テーゼは、その基本的な革命の展望において、

理論的であるが、たゞボレーフ論文に代表される二段階革命の展開に、コミニスト・オルム論説たよって複雑化され、民族解放の課題が並列的に結合されたものにすぎなかつた。だが、これに対して、反対派の中央委員の提出した意見は、あくまでも「アメリカ帝国主義の全一的支配」の論調によつて、民族解放の使命を中心的で統治的使命として提起するものにすぎなかつた。それは、一九四九年の日本労働者階級の階級斗争を破壊させた徳田分派のやまりを正しく総括し、根本的与革命の路線について理論的に前進した立場から提起されたものではなかつた。民族解放革命という階級的な論理を小りずけた神田、神山はもちろん、宮本謙治においても、ブルジョア階級に対するプロレタリアートの斗争から目をそむけ、革命と人民主義に限定すると、いづれも東洋的本質が滲透していたのである。

これによつて、朝鮮人民の革命的斗争の最中に、反対派の指導部自らが、天皇制とブルジョア階級と形式的に區別することによつて民主的仕事と実現してから次にブルジョアを打倒するといふ、形式主義によつて、プロレタリア全世界革命の思想と、プロレタリアートに向かう進歩することをたすけたのである。このことによつて国际派諸分派も又、朝鮮人民を支持する強大な大眾斗争を統一的に指導することができず、又眞に革命的思想による、マ、改良王キにかかりかたプロレタリアートを教育し、見せかけの極左的冒險王キを拒否し、階級斗争を發展させることによつて革命的高揚を準備することができなかつた。のちから、コミニスト・オルムの四全決に対する支持が明らかにあると共に、無条件的自己批判によって四全決と中共を承認し、自らの組織を解体すると共に、極端に民族主義的五一連綱領の下に復帰することによつて、画期的な党内斗争を演じたのである。

六全協の党内斗争と

七国大会の危機的状況

極左的不指導方針への転換によつて改良主義の敗北に対する責任を問はずしよつとした官僚主義的指導部の政策は、五一一年夏までの間に、労働運動を壊滅の危機に陥れた。冒頭主義によつてドローリアートのは裏を粉碎して、危機を脱した占領方針は、ふたたびもがえた露骨動向の好勝の下で、生産の増大と資本蓄積に熱中する社会をつがんだ。

この平和的元進の増大を平和ヨーロッパ勢力の演化、情勢の發展とめんどう排薦部の成績転換の本質は、極左方針に対する科学的な統括を避け、消極的なアルミニヨンとの現状維持の口実による分岐づかれたのである。朝鮮人民の革命的な斗争を見殺しにして資本主義運動の指導部によつて、シコネー・クーペからニードニア休戦へ、平和五原則と和平共存の路線が明確にすゝめられた中で、労働運動は徹底的な右翼的な方針によつておかざれつさせて行つた。

日本共産党においては、五〇年の荷物の大分派争事が實際的な圧力によつて鎮圧されてしまつたのちには、党的政治的、組織的な明白な破綻はもつぱら異常な非公式指導体制の下での極左主義と权威主義によつて隠されつけた。

終戦後運動の狂気のしあつけは、ますますそのさうづれを予想の傷口を大きく拡げ、それは又、國を重ねるごとに「諷刺を強化し、ついに國內に於ける一切の思想斗争とアルミニヨン的反革新的な部分を寛容せざるに至つた。

六全選はこのよう、「一のよう」に政治的組織的に被廢した党的な「うまい副産物として生まれた。

五三年のスターリンの死去、日本共産党における總田の死ののち、山林的の權威を背景にして、志田今派と田中天香派との間にあけた、全般事務の崩落ははじめうなことにはまちがいなし。だがそく

は五〇年の党内斗争を眞に革命的に展開し、あやまつた党的指揮方針の下で鬭争をつづけていた。党内の一般大衆からも、党そのかうも切りはなれ水、カクリナリ化した場所でつけられた。そひは、五〇年以來の党内斗争を、幹部間の官僚的取引さへ、よってうまくなし、党の統一と團結とある言葉にかくれて無意味な折衷と妥协を合理化するものだったものである。

て水は、日本労働者階級の斗争を根本に支持してしまつた中野のあやまつた黨の政策に対する眞の自己批判や、さびしい内争によつて党のボルシニエヴィキ的團結をりきつとふるみ、かの衝撃的なタイドによつてでは決してなく、自己の過失から最大限にインペイし、自らの權威を維持するたりの官僚的、固執種として生れたのである。六全段はそれらの取り引きを今後は内大衆に説得させ、あしつけるための儀式以外の何物でもないた。

このよう六全段を生み出した過去の中に、六全段が生じたあくまでも確実と六全段の党建設があちいらぬほんとうな原因が残されていたのである。

六全段はたしかに党の立る程度まで系統的に明らかにして、共に、何よりも「党の統一」にかんする深謀密計において、必ずしもの党の分裂を一方的に田舎分派の責任に帰するのではなく、ついで金堀の責任として想定することによって主流派分派の上、を指摘し、これに因する行政的処分や組織的処置の取扱を示したことは、党建設の上に重大的な時期を切りひらくところであつた。六全段後、金堀に与えられに任務は、六全段によつて起きた右翼の過失があまりを全面的に政治的理論的統括せんとしてあしすゝめるために、確保された党内民主主義を一層強め、党内斗争を徹底的にあしすゝめることによつて党的革命の精神とするにあつた。

しかし、これがさまで下したのはまさしく、六全段中央委員会、本部をうちかった。六全段中央委員会は、郵政、農田をはじめ

1

主義を根本的に改め、党は革命的に再建する道をうち出す方向を示すものこれが出来なかつた。やうに、六全協決議は五の年問題の責任を全政治的、階級的立場から全面的に検討するのではなくて、単に抽象的道徳的な反省に終らせる方向をも含んでいた。六全協をめぐらした中央の幹部は、五年にわたるきびしい思想統制と愚民化によって縮小してしまった全党的党内外大衆によつて、故意されがちであつた分裂の事實によるべきことを極力さけ、あやまりの責任をひだすうちに一僕懲ザンゲ式に全党にすりかえようとしたのである。すなはち六全協による党内からの過去の責任追及の声があがりはじめてきたときに四五一は前記の論文で「共産主義者の品性と德性」を説いて、ブルのモーテルを共産主義者の頭腦にあしらへ、野坂参三は太田二日のアカハタに「誤りをかかした人に向して直ちに不信の念を持たれてはならない」と書き、「單に身をひくことが責めども正しく方ではない」と、同じの自分でだんだん不信を抱くことはいけない「輕々しく叱咤してはなるなん」と書いた。それはまさに六・一の事件の例外である訳はない一般的の実情である。だが過去のあやまりが徹底的に検討することによって党の路線が止むねばならないとの時期に過ぎのあやまりたつて最も責任ある地位にあつた野坂は、「のむかづな強争を許さずとしたならば、それは決して党が再生せらる道でなくかうだつた」とある。

六全協の「一の柱たるヤング的な指導の放棄と責任回避の策動」によつて、党内大衆が六全協の意義をからうべくなり、はげしい過激の責任追及を開始するに至り一定の時間が必要とした。九日に入つて五の年以降に井除されただ民員が組織に復帰しないあると全党的な直ぐ自由左共闘の一挙に爆発的に開始された。九月の西に開かれたが各地方幹部を納得させるために巡回して開いた地方党会議では、以下水戸中央が「僕らここまでき出来なかつたほゞ強力な責任追及の声たゞづかつた。

五〇年以降の日本の階級斗争に於ける全般的動向は、主として他の勢力に先がけて立ち上ったのは日本勢力運動であつた。五八身着の授業料争議以来、反戦斗争と「うだん」こと署名の域から引き出して、積極的に悪化の勢ととのべ、わたり全国連大会によって理論的組織的に組織を再建したことは、全般的動向に大きな地位を占め抜擢がたいものとして確立した。とくに学徒運動の指導部が日本アーレラリアーのエネルギーを正しく汲み取ることなく、敵の攻撃を許さない結果を招き、春斗が終盤の方に向つていた客觀的情勢の中で、第十一回大会を前にして、勤評半島や全階級的な防犯斗争の力ギとして全国的に展開するため労働者階級の主力との結合を深め、学生運動の思想的孔

其を克服する方向に向つたことだ。画期的な政治的前進であつたが、いかねばならぬ。和歌子の勤評斗等の教練訓令全般に極大し、勤評部隊が全般に従事者の階級の斗争として全般的に展開するところから、反軍の柱と見ゆる、精力的な活動をつづけたことか、其が原因を階級的にさしたあらための教練訓令全般となつた。

この本大學生組織の前途をさうじつたのは、其が終結する半期的役割を果して来たアロレタリアートの前線部隊の革命的前途にほかならず、アレードキは、日本共産党中央の組織的防衛と、学生運動内部にあらわした日共見玉教説、右翼的勢力との非攻撃政策にてマクナマラだといひのである。

全部運河一回大会はあらざる手段にて学生運動の革命的前途を阻止しならざる右翼的日本共産党中央部の妨害に拘らず日共見玉教説粉碎して、帝國主義の打倒やその決定的力の争奪の日本共産党、画期的な前進をなしとは大。田舎の多数の大衆的支持によつて決死の太路線を否認し、党的決定と大衆団体の決定の上にあくこどを強つけ、目的で招集した代試員会六十会議が「第三回年の一年にかつてらしい暴虐な党部破壊行為」を主なだより事実は日本共産党中央部が現在日本の大衆運動の中でのうら支拂を受けたことからこそつけるべし、これがそれが日本共産党中央部で抗ひあれば、参加者の運動の上にあぐらをかいた官僚体制のツイタテ以外の何物でもないといふために証明したのである。

五七年の新潟の裏切り以後、社民指導部は徹底的の批判とかく、これに出稼した革命的反対派の内策を暴露せしめ、その政策によって勞働者獲得、武装化せらるゝと共产の課題となつてゐる現在、自ら完全に社民へ転落するとしてしまつて、現実には社民指導部は裏切りをかゝるといふツイタテの從属關係へつてゐる日本共産党中央部に対する政治的信頼の爆発以外の何物でもなかつた。六・一事件が日本とし開拓才小学校運動に対する破壊的批判とトロツキストの運動がシカゴ二ア、大量死人となつてゐる事件が、日本共产党の党

→(B)より

派クラ構成され、分裂当時の両派のバランスの上に成立していく。六金湯は、その自己批判を藝術的・組織的な面にかぎつて提起していたが、カナ一派はそのすべての規定が審査の中、「證明」され、「と述べることなくして、無批判的に肯定され、それはその後の党中央の指導の上で強く指摘された。野坂は六金後はじめで、本部に帰つてきかづく「六金協によつて正しい戦跡（新綱領）」と戦術（六金協）をもつた。これは正宗の名刀を二つもつた門下生のものだ」といへ、六金協によつて開始された責任追究の立場が新綱領向題からどうぞらせために努力していったのである。その一方で、六金協は既存の基本的な戦略コースにおける日程見

一〇四

「日本共産黨史上眞摯的貢献をもつてとされた」と曰ふ大念日・大念日によつてヨリ開かれた党内民主主義と党建設の方に向に懲止符をうち、新たに官僚主義からのための防護堤がしかつた。さればどうの混亂、大会の中で不平した代表員の党建設のためのエヌルギーは一大どんぐり投げを果したのか?

大金枝事に提出され、詮えくふと妙にだけの貧困層や党建設のための努力は七大會にどんな実を結んだのか? 一そくを決定したのは、ただ、党内に強力な断平たる統一された反対派が存在しなかつたと云う事実である。

今日わが小は大金枝の党内斗争を正しく體括すべく時実に立て、大金枝の党内斗争が有効な実を結びえていかつたのは反対派か、改良主義的左派ないしは中間左派に至らひてあり、そして官僚主義者の宣傳する愛の鉢の附點と云う神話を持続したかったところにある。このよつた状況の下で七大會に不平は自党の危難的状況は次のよう結果に不平れる。**(大)** 党の大勢力を多く減少させ支障していける所が主義である。既の相撲における革命的無能力と政治的不感症、理論的な完全の不毛の状況を表えていけるのは、田舎的の根性、ソ連共産黨の存在でしかないのである。**(大)** 戰勝、戦術における政治的誤謬と社會主義である。七大會とそれを準備する全党的討論の中で、党意識の中へといろん正確的誤謬が附和かになつてゐる。それはやがてに世界革命の展望の完全な公論を標榜としてゐる。済本對日生産の発達の風潮などどのようなものである。政としてのナ・現代に於ける革命は實現玉成といふ基本的な展望を

これは全く外れていうことである。次にその中に現れる本質的な性格認識の完全な外殻によつて魅惑と自己中心的混同を生み出すのである。それによってコニカルで思し玉危機をうけついだ二階戦略論にガソリーナ、それが社会的手段による平和革命という社会民主義への蘇生力である。

試合を通しての革命とさうした想はいが、「現代世界の構造化」ということによつて弁護しようとしても、社会民主主義の主張は、主義への蘇生をいかくオーバーとは決してできかいのではある。たゞ争いにステレーキをかけた。日本共産党はもはや既成方針的、日本大眾媒体にまかせ、その階級斗争を階級的目としないで、社会發展させることにして目とくじめようともしない正真正銘の革命家となつてしまつたのである。「社会黨の政策はいがが力」が「此が主張である。これは大手をふれで取り進歩で立つ」と玉井一草を前にして角田恭四郎は嘆びの声をあげた。一九一八年のことである。主張はすこして社会民主主義的社會主義との誤別によつて角田恭四郎にそよにもかづわらず、日本共産党は社会的日本民主主義、つまりは左翼セクト主義に深くおかれていた。大衆の歌が起つて日本共の殖民地、すなはち彼らの日々の存在価値を定めてしまうのである。日本共産党は自らがその時代の解説セクタとして、民的外ラクにむかへやらず、それを外見上の意識的、独立的、個別的視點、具体的斗争における社会幹部との統一行動などをひきこめてスコアによつて大家を日本共の市民的外ラクの歌として、アリつけ薦持しようと努力するのである。極左セクト主義は、指揮棒がたるジョルジーの手先であると云う一般的真理を、カリブよい前線で認めた。そこには、このから生まるる。社会幹部に繋るで声が惜を呈するのである。彼つた皇帝の才光とよがけることに全く共通である。それは、まず第一に現実の階級斗争を階級的、高める課題がうは縁をないからである。

る。戦後いくばくか日本の階級的階級の時期を右翼的反対的戦
略と左セクト的な組織指導とによって、東洋リブンは日本共
産党は、そのことによって日本プロレタリアートからの正当な評
価をうけなければならなかつた。左的評価によつて日本共産
者階級的支持を得て、ソビエトの勢力をも抑へらす。今日にあつては
日本共产党は労働者組織の中に左翼的基礎をもつてゐない。オホ
七回選舉大会において音楽監督委員の養田正一はいへか説いて
て次の數字を発表した。「大会代表員445名中、左翼的組織選出
の代表員は4、7%」に対して、代表員の22%に達する三百二十名は
歳の兼任活動家であつた。又代表員の外、八連する三百四十三名
は滿二十年以上の党員が占め、専任三十才以下の代表員は五四名
十二名にすぎなかつた。このことはわざと然だにいふべくの不統一を
クムに活動委員部が存在するかと証明してゐること。またにこの
数字によれば、日本共产党が極左派組織に昇進する實際主義者
の数ですべて、生氣に満ちた新らしい世代、青年の斗ハクシ功利
はなされず、老衰しつゝある党にすぎないといふことを明確に物
語つてゐるのである。

準備と細領試験の時期において、党章に反対した有力な反対意見を得たのは関西地方委員会と東京都委員会を中心とする一部の主義的な中左派の分子ですむかづく。二ナ中央は党章を革命的進歩性に強い打撃を受け、民主的政府のスローラインをめぐらす。そこで、社会党との連携協定のよづな協定を社民幹部の打算にあつてれたものであることを忘れて、それを民主的政府とか、民族統一戦線の基礎とするうなことは、革命的プロレタリアーー間に敗北的な連合主義の思想をつえつけようとする犯罪的行為しかないのである。問題は、日本ブルジョアジーが日本主義的でなくしてか否かではない。本年度著者たる資本主義的生産關係の打破に本筋的抗辯をあつていいか否かである。中左派の論理からいへば、改革主義の方向を一元化つきりとひき出す道にはない。官僚主義社会主義の主張者も終戸の著書と認めている。徹底が至れりしてから社会主義へ人民主義へと通じようとしていた巧妙なツクで討論をすり變えよつとしてしまふに、彼つは官僚主義の上位にひきつり込まれなければならぬかほどのである。

革命的反対派は在存しけかつてわけではない。だが、その多くは、した細領の下に結果しておつす、それ故に大、一事件によつては独立の下に逃げ出でていった。

第1回大会後における革命的共产党主義者の任務

ソ回大会の實際の経過の中で、高原主義的・右翼の桂一の有効反対によって、中央戦闘の一撃に敗れた。新中國連盟は、六、一事件、その他の問題を國原主義者の集会へ参じて、その主流を止めることによって、失敗したが、中央戦闘の一撃に敗れた。新中國連盟は、高原主義的・右翼の桂一の有効反対によって、成敗した。もはや、政府的・日本無主義にむけられ、日本の労働者階級への指導力の完全な欠陥を露呈している。日本共産党が、存立するためには、革命的反対派に対する高原主義的陣営に依頼する以外には、方法がないことが明らかである。大會の進行は既に日本主導では、大會決定によっては、民主主義的・自由と、権威によっては、その力ある金融寡頭の規模において決定的になくなっている。それとともに、中国在米の中央に、海正した部分は、所長派との間に高原主義的同盟を結んでおらず、一方で、新中國連盟の高原主義的陣営を含めて、大會に擴大している。大會前に於ける中國の代表をするなど、大會に於けてはじめて与えられた公認投票権を行使して、大會に集つた責任者と社説編集部員とに於ける終り、院内理事は、七回大會の議長として、新しい戰勝に於ける役割によって、運営委員会の上重視、下部に置いておき、徹底的に擴大していく。大會前に於ける中國の代表をするなど、大會に於けてはじめて与えられた公認投票権を行使して、大會に集つた責任者と社説編集部員とに於ける役割によって、院内理事は、七回大會の議長として、新しい戰勝に於ける役割によって、運営委員会の上重視、下部に置いておき、徹底的に擴大していくことは、できぬ。大會の中で示された大會の方針は、ベ奉行圧力を極端に強調して、大會に集つた責任者と社説編集部員とに於ける役割によって、院内理事を運営委員会へ、一方で、新たな國の中心としている國務省や者の動向を監視・評価するところは、今日さわめて危険である。大會運営の上にありわたった高原主義者の技術的援助など、それがよって生じた会員の風潮は、決して腐敗的な事態ではござり得ない。しかし、高原主義の風潮において、大會の命脈を一挙に遮断するのであつて、容易に解消せぬ、そのため本題であるとしておればなり。彼

社会主義の性質を檢討についてフルシチヨフは公然レーニンを修正して、レーニンがオーライニターと斗つたまさにその裏で、ついで社会主義への転向を証明した。だがスターリンが公私とレーニンを修正しなかつたとしても、それは彼がレーニン主義を個体化して、自分の田畠見主義と並行して評する限り合理化することを嘗てしたのはスターインであつた。大衆斗争を徹底的に押しすゝめ、世界資本主義に対する宣告。王者のことはなく、彼らはそれを象徴する道具としてブルジョワジーとの向ふ消極的な現状維持をつくした。彼らは本筋的階級的立場を立つのではなく、大衆斗争と、官僚主義的特權の擁護により二股がけで立場をつけていたのである。世界へロレータイプを取引がたい改良主義と田畠見主義の毒薬によつて腐敗させてしまつたのである。

しかし、第二次大戦を契機とする、かしらめうことの出来ない世界人民の革命の前途とソ連国内における計画主義の成功は、死の官僚主義的導きと特权ヨーグのための努力にもかゝわらず、スター・リニアズムの持生する基を切るが自身の内的矛盾と破産といよいよ明らかにせざるを得なかつた。

一九四六年の二十四回大會は共闘や効率性をもつて開かれた。これが世界の絶頂にある資本主義に死を与える世界プロレタリアアーチの運動の手をもつた。さしつけ水の期間の間、ソビエト労働者階級の奮闘の上に、世界プロレタリアートの運動を蓄めていたスターインの旗幟をつりに維持しがたいものになつたことを証明した。東においてアメ約束達をもつていたのである。全世界で重大な結果をもたらすフルシチヨフのスターリン批判にもかゝらず、彼らの政策の本原は根本的に同一であった。フルシチヨフは公然と若干の理論的問題についてレーニンを修正した。腐肉主義が存し得る限り戦争は不可避であること、社会主義の運営的な途、社会主義主義の性質を檢討についてフルシチヨフは公然レーニンを修正して、レーニンがオーライニターと斗つたまさにその裏で、ついで社会主義への転向を証明した。だがスターリンが公

うにすぎない。トリックによって、のちに一反綿密に合理化された。レーーンの修正は、スターインのあかられた階級的犯罪の思想の基礎を譲り、労働者の上位階級をかく・官僚体制譲りのための傍飾された口実にほかならない。フレンチヨフのスターイン思想もつ理屈的な不徹底と非本質的なプログラマチックな方法は、決して過激ではない。

今日におけるフレンチヨフの反革命的な性格は、マルクス主義革命論の原則を裏切るために、階級立と資本制の平和的共存戦略にすりかえていることの中に示されている。現代世界の「構造的変化」なる現象によつて彼は政治的な破綻を説き、と共に、革命の日本的性格を蔑視棄却し、名目上コレクターの階級斗争の流産を準備し、正当化するのである。

フレンチヨフ、トリックの路線の反革命性は、平和共存戦略に基づいて、高圧主義戦争が勃發する根源を除去するために斗争ではなく、その一時的阻止と自己目的化し、さらにそのために民族ブルジョアジーとの同盟を合理化し、絶対化された平和共存の下に各田プロレタリアートの階級斗争を抑圧して、社会民主主義的な階級協調と議会主義への道をとつてゆることの中で示されていく。口内政策にありてもフレンチヨフ修正主義者は、口有計画主義の劣化プランと、いつ至る主義的な手段にたよつて躍進した。また、MCJの大コルホーズへの完遂は価値観剥離の強化を必然的にナーベル的緩和する方向に位置を貢献をうとしている。彼らは日本大蔵会もソイタテとして急速に生まれて、いわゆる口内の矛盾を「非集主化プラン」といつ至る主義的な手段にたよつて躍進した。また、MCJの大コルホーズへの完遂は価値観剥離の強化を必然的にナーベル的緩和する方向に位置を貢献をうとしている。彼らは日本社会にどこか重くて階層分化をより深刻なものとする以外のそのではない。こうして政治主導者階層の官僚主義の克服は優等主義的打向を廻して、官僚・労働者階級との矛盾を拡大再生産でゆく結果のみがかかる見えだるのである。

シーラン死後から数年にして、いたたひつくりあらがれ公官僚体制の一時的・中間的安定は、スター・リ・ン崇拜と最も直結してゐる。一方で、大規模な便宣的な歩調を示すと、ソ連投向的方法によつて支那へ向うへいるのである。その方法的保守性は、支配的意味する所以である。急速に發展する大陸革命の中、現地維持的な平和共存のコープと、廿世紀革命傳統との対立を惹いてゐる。だが、このよりるる官僚体制の過激的性格を意識するあまり、それもつ重大な影響。日本共産主義團体における革命的な裏切り的性質を利用してモットーを直譲したところなどは、官僚体制のものに挑戦し反ハンカリーの革命的アロレタリアートをも容赦するなどして説かれていた。ハンカリア事件以後で見るソ連官僚体制に対するアロレタリアートの斗争を強化し、労働者日本に於ける官僚体制と幹部的地位を確立するためにこそ、彼らは世界革命の展開から離れた平和共存の幻想を小じめき、アロレタリア的原則を堅持して終焉主義・民族主義によって、世界アロレタリアート主義的由来解消せば、革命的斗争を挤压してゐる。ユーロ共産主義問題の綱領を述べた最近とくに「ソ連」の発表につつある各々共産黨の修正主義への批判は、動搖しつつあるソ連官僚体制に対する態度を説明しつつある。さうの態度を説明しつつある改進主導的路線を西ヨーロッパの社会主義と併せて見ると、ジマネーストによるソ連の一部門を擁して政治的・經濟的な毛井に處しての獨裁不平等と、すべての口を歪められた階級斗争の至乗化、官僚制の平和的共存の範衍化と、官僚的ヨーロッパ的社會主義の実態を説明しつつある。即ち官僚制の本體の中でも、自らの準備不足から始まる反目争いに回復した。だが、每次の資本主義社会の前途を危惧して、ソ連・オルジニアジーが擴大する需要を圖るに、われ先づ生産の増大を口づけしたアルジニアの平均地盤の増大をスター・リ・ン

トヨタ二郎の平和ノートの勢力の増大と肯定的評価が其存と社会主義への平和移行を絶対化して「平和主義フランク」という言葉がやがて誕生するに至つたのである。だが、トロレーリードを支持した二つの幻想と一九五〇—五七年の好景氣と帝日生ギヤ放つたのである。

たゞこのよつた筆者町アームの背景だと、今日の井原義本主ギの取扱を準備し、階級支配のもつ根本的目的とするところから出でた一種の意識が町アームになつた。ところが一九五〇年日本アメリカにはじまつてゐる島本主ギの傳統と労働の傳統で、島本主ギの根本的の精神に力をひらく方向に展開しつつある。東洋の東洋を完全に分成するかうにアロレタリアートはふたたび世界化の方向を之から離さずしてゐる。他方に例へば東カウロジマの植民地革命の大根川平アラド世界を走つてゐる。そしてアルジエニア革命の現実の進展は、西欧帝日生ギの最も重要な筆者時、單語的根拠地、ヒマラヤアラブ植民地革命の大根川、アロレタリアートと労農の指導する下にナラウガナセツシテの革新的なローランドとしている。フランスアロレタリアート指導部の寧ろ力と實力にもかくわらず、さうの基本的には民族ブルジョアジーへのヘケモニーをねらうとするコレタリア的露森の下に向つてすんでいるのである。

本が、アシア・アラブ・種田国革命のアーナに足をとづけ、必死に累りきりつてじるフランク皇帝のを糸を、フランク共産党とフルシチヨンフロードコールのボナベルチズ・西政教の樹立によつて救う事になり、その要力り的奸佞を世界フロレタリィアートの手の網で駆除した。至る空氣の進行の中で、機動軍備政策による諸矛盾の渦巻の一時的ひさの如しによつてではなく、直接的空襲主キリストアーリア・アジー・タク舞ふよせ、世界アロレタリィアートの敵対と努力者因田への帝田主義的脅威をもたらしていく政治的情勢の基盤で、平和共存の思想の發展を促すするにつきと不しつつある。アラブ世界に進むしてくる革命的民主化や的奸佞の反帝抗力斗争に、革命起義への合流の勢を

日本が「タリヤート」は不都合である。それが日本に於ける本主義の根本的矛盾の不可避的なるあらわれである。この矛盾は部分的な要求力がトクで改良によつては決して根本的に解決され得ない事と、そのためには、アルジンガニアの領土支配の盤根である田舎勢力を打倒し、アローラソードの將旗を実現する以外に口あり得ない事と、それが必ずアローラソードの在位的使命であることを明確に自覺した指導部を不可欠に要求してゐる。

の日本革命を日本革命へあることをレーニンは「これが世界革命の第一歩」と認識しなければならない。全世界にあけるアーリジヨア勢力の打撃とアロレタリア主義の樹立、アロレタリア全世界革命の主導権につき、世界アロレタリアートの征圧的任務があり、たゞつく演説主張案上、最大の問題をもつであろう恩讐に向つての、世界の不可避的な進行の、わざとこの位置をもつて置いた議題として、世界革命をしてくるのである。日本アロレタリアートの上にて、世界革命の突破口ともいふべく、光榮ある社會譲せらるだるのである。日本におけるプロレタリア無产の樹立、トルシヤシナーの世界大戦の不可欠の一角に決定的な影響を与えたものとなるのである。ナチ生誕時にあける最初の革命は、西欧のアロレタリアートの發展のための斗争を徹底してからじや、民族解放斗争の革命的發展をみつけだしたスチーリン主義と、その新たなる修正によって一時的中暫的安定を確保した勞働者団衆における宣傳体験によって止めた方針とする。トルシヤシナーとの「平和存在」、「社会主義への平和的移行」の幻想で燃える革命的行動によつてハーベル特種され、全世界的恐慌の下で、西欧アロレタリアートの根に植根斗争を展開する。彼らを自らのお力にけちがき、アロレタリアート世界革命の大いにひらくならぬ。世界革命の上にあける、日本アロレタリアートの現在既せんがくあり。